

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	感染予防実践者に求められるリーダーシップ能力 ：コンピテンシーと変革型リーダーシップ行動の関連				
研究組織	代表者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	操 華子
	研究分担者	所属・職名	看護学研究科博士後期課程	氏名	府川 真理子
		所属・職名	順天堂大学医療看護学部・准教授	氏名	川上 和美
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	操 華子

講演題目
感染予防実践者に求められるリーダーシップ能力 ：感染予防実践者としてのコンピテンシーと変革型リーダーシップ行動の関連
研究の目的、成果及び今後の展望
<p>本研究の目的は、新型コロナ感染症パンデミック禍で感染管理担当を経験した感染予防実践者（感染管理認定看護師および感染症看護専門看護師）を対象に、操・川上が開発した日本の感染予防実践者のコンピテンシーの構成要素の第IV領域「マネジメントとコミュニケーション（リーダーシップ）」と変革型リーダーシップとの関連を検討することであった。</p> <p>本研究は、以下の①から③の条件を満たした438名を対象に無記名自記式調査を実施した。①公益社団法人日本看護協会で認定登録されている感染管理認定看護師および感染症看護専門看護師、②一般社団法人日本感染管理ネットワーク（Infection Control Network of Japan：以下、ICNJ）の会員、③ICNJの関東支部に所属する者。</p> <p>データ収集期間は2023年11月20日から2023年12月31日までとした。データ収集項目は、所属施設の種類、病床数、看護師経験年数、感染予防実践者としての経験年数、感染予防実践者としての経験年数、看護師としての職位、学歴。変革型リーダーシップの評価は、Multifactor Leadership Questionnaire Leader Form「5x-Short」を使用した。感染予防実践者のコンピテンシーは、川上&操が開発した日本の感染予防実践者のコンピテンシー評価尺度を使用した。収集したデータはすべてMicrosoft® Excelに入力し、データクリーニングを実施。変革型リーダーシップの得点は、マニュアルに従い平均値と標準偏差（standard deviation：SD）を算出した。感染予防実践者のコンピテンシー第IV領域の得点は、第IV領域を構成する24項目の得点合計を項目数で除し、平均値とSDを算出した。両尺度はShapiro-Wilk検定で正規性を認めたため、尺度間の関連についてはPearsonの相関係数を算出した。統計解析にはSPSS ver. 26を使用し、有意水準は5%未満とした。</p> <p>調査フォームは55名から回収された（回収率12.5%）。研究対象者の看護師経験年数の平均（SD）は26.6（6.1）年、感染予防実践者の経験年数の平均（SD）は14.5（5.1）年であった。研究対象者の40（72.2%）名が看護師長以上の管理的役割を担っていた。変革型リーダーシップ得点の平均（SD）は2.39（0.47）で、平均（SD）が一番高かったのは、個別的な配慮2.66（0.56）であった。第IV領域の平均（SD）は、3.71（0.56）であった。変革型リーダーシップ得点合計と第IV領域の得点合計の関連について相関係数を算出した結果、中程度の相関が認められた（$r=0.471$, $p<.001$）。</p> <p>本研究結果から、感染予防実践者のコンピテンシーの構成要素の第IV領域「マネジメントとコミュニケーション（リーダーシップ）」を変革型リーダーシップとの併存妥当性について検討した。新興・再興感染症の発生が続く今日では、変革型リーダーシップは感染予防実践者に必要なコンピテンシーだと考える。今後は、全国の感染予防実践者に対象を拡大し、調査を進める予定である。</p>